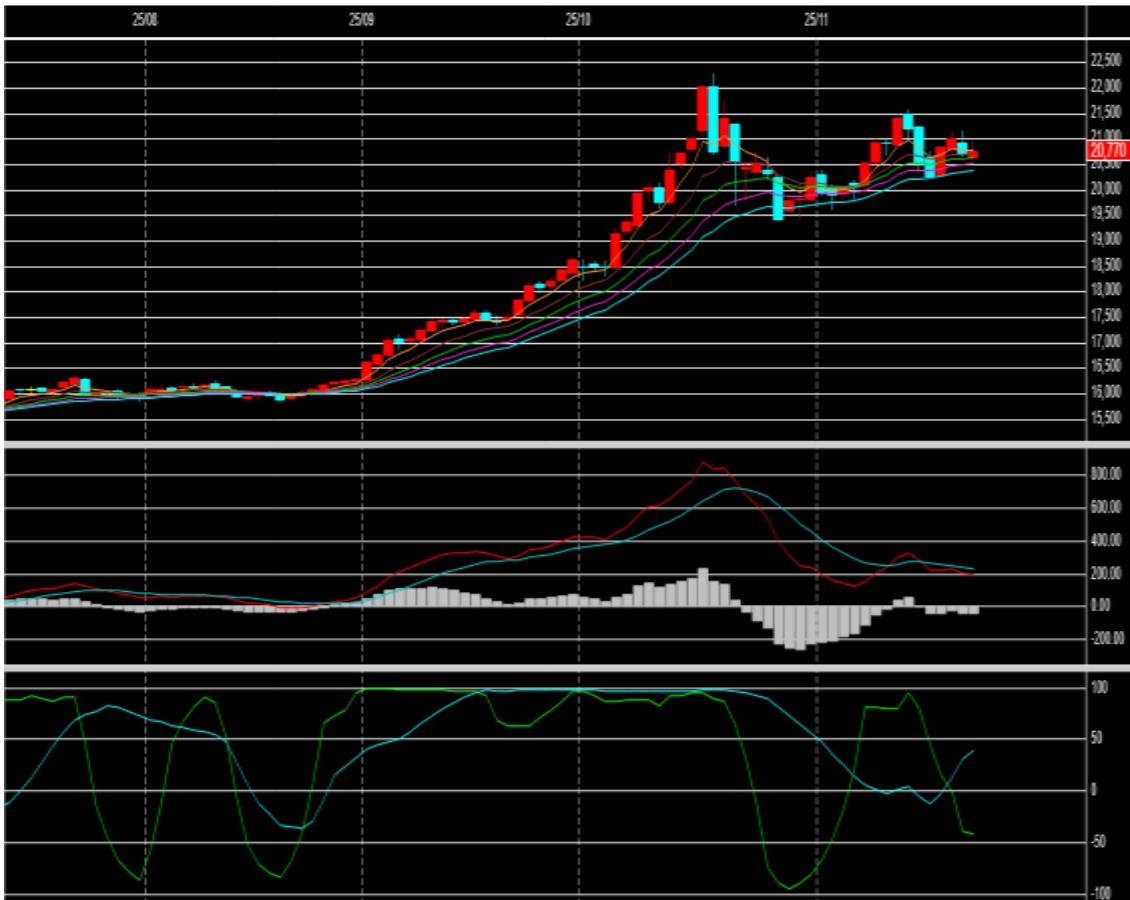


<金標準、NY連銀総裁発言で利下げ確率70%へ上昇・・・>



(出所：オアシス)

今年の FOMC メンバーであり、副議長を務めるウィリアムズ NY 連銀総裁は、週末の講演で「政策スタンスを中立に近づけ、2つの使命のバランスを保つために、短期的には FF レート誘導目標のレンジをさらに調整する余地がある」と述べるなど、講演前の 12 月の FOMC で利下げ確率が 35% で推移していたが講演後は 70% まで上昇するなど、パウエル FRB 議長と歩調を合わせる傾向があり、12 月の FOMC までパウエル FRB 議長の発言機会がないだけに市場に大きなインパクトになっている。またスイスの UBS グループのアナリストはリサーチノートで、FRB の利下げ、地政学的不安、米国政策変更など金価格上昇の背景にあるマクロ経済要因が、来年も需要が高い水準に維持すると予想し、2026 年半ばの NY 金目標を 1 オンスあたり従来の 4200 ドルから 4500 ドルに引き上げている。そのため FOMC に向けた底堅い値動きが続く可能性が強くなり、金標準先物でも 20400 円以下では下値抵抗が強く、FOMC まで 20500 円～21000 円の往来相場を続ける可能性は高まると思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD では、**MACD** が下げ渋り、**シグナル** は下げ止まっている。RCI は**短期** が下げ止まり、**長期** は上昇している。日足が指標平滑移動平均線のレンジで下げ渋りを見せるなどレンジの抵抗を受けて 20500 円以下は買われる動きに思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に關し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取 1,810,000 円(2025 年 11 月 25 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 102,960 円(2025 年 11 月 25 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>